

会 議 録

会議の名称	第4回 長瀬町学校のあり方検討委員会
開催日時	令和3年2月25日(木) 午後1時30分～午後3時36分
開催場所	長瀬町中央公民館 2階会議室
出席者	出席15名 事務局4名
欠席者	委員1名
会議の内容	1 開会 2 委員長あいさつ 3 議事 (1) 保護者アンケートの内容について (2) グループワーク (3) その他 4 事務連絡 5 閉会
会議の公開又は非公開	公開
非公開理由	—
傍聴人の数	0名
発言の内容	別紙「審議内容」のとおり
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第4回長瀬町学校のあり方検討委員会次第 ・ 資料1 学校教育に関するアンケート調査票等 (アンケート調査通知・資料、アンケート調査票) ・ 資料2 グループワークについて
事務局	教育総務担当
会議録の作成方針	<input checked="" type="checkbox"/> 要点記録
その他の必要事項	

審 議 内 容 (発言者、発言内容、審議経過、結論等)

1 開会 (事務局)

2 委員長あいさつ

3 議事

(1) 保護者アンケートの内容について (事務局から説明)

前回の会議で検討した内容やその後、委員から頂いた意見を参考にして、アンケート (案) を作成した旨を説明。

委員長) ありがとうございます。それでは、ご意見がありますか。

委員) 資料の2ページについて、「学校ごとの将来推計」はどれだけ正確なのか、疑問。中学校の人数がかなり少なくなっている。先を見ると本当にいなくなってしまう。次にアンケート調査票の問10について、学級編成の質問は、調査をして何か参考になるのか。どのような結果がでるかかわからないが、必要のない質問はなくした方が、回収率が上がるのではないか。

事務局) R7年以降の推移は、27年度の国勢調査をもとに算出したもの。R7年度までは実数で推計ができるが、12年以降はどう扱ったらよいか。

委員) 答える立場として、知りたい内容は網羅されていると思う。

委員) 複数回答可、の項目には下の子のことを回答してもよいのか。

委員) 小中一貫校にはモデルケースのようなものがあるのか。イメージがわかりにくい気がする。

事務局) 「小中一貫校」にはいろいろなパターンがあるので、前回のアンケートをもとにこのような形で載せた。「小中一貫校」となると、ある程度、期間が掛かってしまうものなので、そのことも踏まえて掲載をした。「学校ごとの将来推計」は、R7年までは実数に基づく推計とし、12年以降は国勢調査をもとに算出したことを注意書きして掲載することは可能。

副委員長) R8年は11人しか生まれなかった学年。R6年辺りからもあまり変わらないので、12年の推計も現実的なのでは。幼稚園と保育園の現実がR7年、8年辺りに出てくる。

委員) 中学校のR7年は140人、全員そのまま進級してくれば。ここ数年はあまり変わらないが、その後が一気に減ってしまう。表示の仕方はそういう方法ができるならよいのではないか。小規模校のメリットよりデメリットが

多い点が気になる。受け取り方が心配。

委員) P T A活動はあってもなくてもよい活動、と聞いている。小規模校なら状況に合わせた活動をしていけばよいのでは。また、それに関する質問は削ってもよい気がする。今まで通りだと負担が大きいと思う。

委員) 人数が多いと役員が決まらない。また、少なければやらない。という感じがある。保護者には、子どものためなら環境に合わせて協力してもらえらると思うのと、小規模なら関わりが深くなるというメリットがある。残せるものなら少しでも学校を残したい気持ちはある。「小中一貫」などの表現は、わかりやすくしてもらえたら。

事務局) 今回のアンケートは、町ではなく、学校のあり方検討委員会で保護者の意見をいただき、よりよい教育について検討していくための資料となるもの。アンケート問10の学級編成については、カットする。グラフのR7年度については、実数に変える。できれば本日アンケート内容を決定して、調査を3月に行いたい。

委員) 問6、7の結果は、どう扱ったらよいのか。問11のような質問を具体的な説明がなく唐突に出されてもわかりにくく、具体案を出さないと答えが選べないのではないか。

委員長) 今回のアンケートは、一緒に同封する資料を見てもらい、現状を踏まえた上で行っていただき、子どもを持つ親としての思いを掴むものとして考えていただけたら。

事務局) この委員会は、学校を統合する、しないを決めるのではなくて、児童生徒にとってよりよい環境とは何かを考えていくためのもの。委員会として、改めて意義を再認識するためにもこの後のグループワークを行っていただきたい。問11については、なかなかそういった意見を聞いたりする場もないので、どんな傾向があるのかを知るためにも設定したい。

委員長) (1)の議事については、ここで終了にしたいと思います。

続いて(2)のグループワークについて、事務局から説明をしてもらいます。

(2) グループワーク (事務局から説明)

3つのグループに分かれて意見交換、発表。

協議題

(1) 児童生徒にとってより良い教育環境とは

(2) これから5年先・10年先を見据えたとき、良い環境を実現するためにどうすればよいか

《Aグループ》

「児童生徒にとってより良い教育環境とは？」ということで意見を出し合った。

- ・一人ひとりに目が行き届いて、学力がつくような学習環境
- ・登下校も含めた安全面の確保
- ・切磋琢磨できるような、仲間との関係
- ・子供たちが学べるような、施設・設備
- ・豊かな自然環境、地域とのつながり

などが重要であると考え、これらを5年、10年先に実現していくために、公民館や体育施設の整備、子どもたちが少ない地域でのスクールバス誘致等の意見が出された。

《Bグループ》

・授業が少人数の方が、親としてはありがたい。子どもたちがわからないことを質問できる。

- ・多様な考えのもと、触れる機会と学べる活動がある、ということ。
- ・精神的負担がなく、学べることが大事。子ども自身の発達形状を第一に考え、基礎学力・確かな学力を身につけさせ、一人ひとりに平等な教育を行う。
- ・地域との交流・繋がりを深め、地域の力を学校に生かす。自然と歴史と文化豊かな長瀬町として更に住みやすい街、子育て支援の充実を目指す。

これらの意見をもとに、具体的には学習・スポーツ施設を充実させること。大きな企業や大きな学校（高校・大学など）と協働、連携していくことが更により町をつくっていくのでは、という案が出された。

《Cグループ》

「児童生徒にとってより良い教育環境とは？」をもとに意見が出された。

- ・施設のグラウンド、校舎、遊具などがきれいで設備が充実している。
- ・自然が豊か。
- ・登下校が大変でなく、安全に通学ができる。
- ・地域との連携、地域が温かい、地域住民とのコミュニケーションがある。
- ・学校内で多くの友達・仲間がいて、学年を越えた交流ができる。

- ・保護者が安心して通わせられる学校。
- ・落ち着いた学習環境の中で学べ、子どもたちの長所や個性を伸ばすことができる。
- ・5年10年先を見据え、情報収集をしながら環境施設・設備の整備を計画的に進めていくことが必要。通学バスなども考慮しながら、通学路も整備しなければならない。

委員長) ありがとうございます。続いて、その他ですが、事務局からお願いします。

(3) その他 (事務局から)

- ①委員の任期は、答申が終わるまでとなっているため、現在の職が終えても継続をお願いしたい。
- ②保護者アンケートは、3月上旬に配布して回収予定。集計は、検討委員会の皆さんにも協力をお願いしたい。
- ③来年度、第5回の検討委員会については、予算も考慮しながら一般町民に向けてのアンケートについても進めていきたい。保護者アンケートの結果も報告する予定。

委員) アンケートの回答期限はいつまでか。

事務局) 中学校の卒業式が13日なので、10日から12日頃には回収したい。

(児童・生徒を通じて配布。学校毎に回収を行う。)

4 事務連絡 (事務局から)

次回の会議は、令和3年度に入り、5月を予定しています。

5 閉会 (事務局)